

Higashimurayama City International Friendship Association

東村山市国際友好協会 第118号

広げよう 受け継ごう 交流の輪を！

2年前の4月、急いで40周年の記念行事として市民受入、式典、市民派遣、記念誌の実務4部会を立ち上げ、これらを統括する為に四役会と役員会を別日程で行いました。6月4日の来日まで約14カ月、8月30日のイ市訪問まで約17ヶ月。部会員は全役員として、まさに時間との闘いでした。私も殆どの会議に出席し、全体の調整と情報を共有しながら効率よく会議が進められるよう務めました。記念誌部会の方は、他の部会の応援に回って頂く為に市民派遣団が帰国しからの作業となりました。

イ市の方が、天候の関係もあって3班に分かれ来日する事になり、慌ただしい受入となりました。ただ、イ市の方が楽しみにしていた富士山観光は、梅雨にも拘わらず晴天に恵まれ本当に良かったと思えました。式典は公式の部分と懇親会の会場を分けたことにより、それぞれ有意義な時間になったと思います。イ市へは37名の訪問団となりましたが、イ市の方々のお蔭で、経験の有無に拘わらず楽しい訪問となったと思います。特にトルーマン大統領の孫のダニエル氏のスピーチは、気負うことな

くゆつくりとして、丁寧な語り方で、好感が持てた事と思います。40周年記念行事は関わった全員の協力によって成し遂げられました。また、市民派遣団の中からの活動に直接参加して頂ける方が出たことも成果の一つだと思えます。今後この会が、益々発展しますようご協力をお願いいたします。

会員交流委員会主催のクリスマスパーティーが12月15日(土)14時からサンパルネで行われました。年齢層の幅が大きい当協会の会員にとって全会員が集える機会は少なく、このパーティーは貴重なイベントとなつています。多くの役員・委員の皆さんが事前の準備や当日の会場のセッティングに汗を流してくれました。テーブルには乗れきれないほどのお料理、飲物が並びました。司会は伊藤(儀) 会員交流委員長が務め、初めに当協会会長折笠広樹の挨拶があり、東村山市役所交流課の荒井課長が渡部市長からのメッセージを代読しました。乾杯の



「イル・フィオーレ」による華麗な演奏は貴重なイベントとなつています。多くの役員・委員の皆さんが事前の準備や当日の会場のセッティングに汗を流してくれました。テーブルには乗れきれないほどのお料理、飲物が並びました。司会は伊藤(儀) 会員交流委員長が務め、初めに当協会会長折笠広樹の挨拶があり、東村山市役所交流課の荒井課長が渡部市長からのメッセージを代読しました。乾杯の

発声は当協会顧問大野茂、続いて中国からの留学生の紹介があり、その後弦楽四重奏「イル・フィオーレ」によるモーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」序曲など8曲の演奏がありました。

歓迎の後、今年のイ市派遣団のビデオが上映され、イ市での交流やその後の観光の様子が披露され、終わりにビンゴゲームとなり大変盛り上がりしました。元気な顔を見せてくれた先輩諸氏、ホストファミリー経験者、派遣生、今年のイ市訪問者等80名が参集し会員交流の目的が充分達せられたと思います。

積極的にやる気溢れるスピーチ大会

市民相談・交流課主催「語学学習者による多言語スピーチ大会」が、1月12日(土)市民センターで行われ当協会の英会話講座から2名が参加されました。

須田法子さんはインディペンデンス市への親善訪問体験談として「最初は、参加を躊躇したが、ホストファミリーのミリーの気遣いや親切さに触れたいに助かった。自分の旅のコンセプトが『そこで暮らすように過ごしたい』であったので、これを実現できたのは、ホストが温かい思いやりで接して頂いたお蔭。本当に良い旅だったが、

語学が出来ればもっと深く語り合えたと思う。今後もイ市との交流が継続されるように何か出来る事があればしてみたい」と述べられました。

英会話ニュース

H30年度前期閉講式を9月12日(水)に行い、修了者は78名(受講生88名中)で、皆勤賞は24名に授与されました。また、後期閉講式を3月13日(水)に行い、修了者は78名(受講生88名中)で、皆勤者は33名です。

- なお、H31年度前期講座は4月10日(水)に開講されます。募集は終了しましたが後期(9月)も募集します。その内容は、
- ①初級と入門の各2クラス。
 - ②定員は1クラス25名。
 - ③講座は1時間単位で、20回。
 - ④資格は、高校生以上・当市在住者及び在勤者。
 - ⑤講師はネイティブのゴードン・ホワイト(英)さん、バネッサ・コーリー(豪)さん。詳細は3月の市報、協会HPをご覧ください。(英会話委員会)

また、松尾民子さんはホームステイの体験談として「以前からホームステイの経験をしたかったと願っていたが親善訪問団の募集を見て、チャンスと思い夫と一緒に応募した」「初めてのホームステイで不安だったがホストファミリーが初対面の時、小さな私の体をぎゅっと抱きしめてくれ、その不安は吹き飛んだ。環境や考え方が違う異国ですが、英会話ができなくとも、一生懸命伝えようとする姿勢を相手を受け止めてくれる。要は笑顔とハートで接することだと思っ」と述べられました。

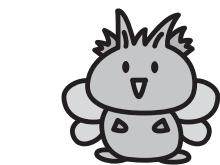
イ市学生訪問団が来日します！

昨年姉妹都市交流が40周年を迎えたのを記念して大人の訪問団が相互訪問しました。今年も例年通り学生の訪問団が東村山市を訪れます。

期間は6月7日(金)～21日(金)までです。イ市からの学生訪問団は引率者(女性)1名、学生10名(男子3名・女子7名)。引率者の女性は1988年に学生訪問団のメンバーの一人として当市を訪れた方です。

当市滞在中は市内のお宅にホームステイし、姉妹校(回田小学校)や警察署・消防署などの市内施設訪問、鎌倉・ディズニーランド等を訪れ、日本文化に触れ、ホストファミリーとの生活を体験します。(ホストファミリー募集は締め切りしました。)

氏名	性別	
Catherine Franssens	女	中学校教師
Sabastian Ahui Gonzalez	男	16 クリスマン高校
Sarah Rich	女	16 トルーマン高校
Joni Oswald	女	18 //
Natalia Martinez	女	16 //
Kaylee Peters	女	14 //
Samantha Miller	女	18 //
Destiney Hays	女	17 //
Drake Smith	男	17 //
Angelina Smith	女	17 //
Kelsen Cummings	男	18 ホームスクール



お二人とも堂々とした発表ぶりでした。

第35回イ市親善訪問団(学生)を派遣します！

*申し込みは終了しました。

期間：8月3日(土)～18日(日) インディペンデンス市民宅にステイし、生活体験、市民との交流・友好・親善を深めます。

出発までに、宿泊研修を含め、様々な研修が行われます。

また、出発前に壮行会、帰国後に帰国報告会が行われます。派遣生から意気込みや感動などが語られますので、会員の皆様にも是非ご出席いただき、彼らの友好・親善に対する思いを受け止めてください。日時などは、広報紙119号をご覧ください。

初めてホストファミリーを経験して

西山 葉素実



やさしさあふれるゲストと西山さんの娘さん

2015年、娘がインディペンデンスへの派遣生になったことから始まった縁。受け入れてくれたのがロバートとティナでした。2017年、同じく派遣生となった息子は別の家庭に滞在させて頂きましたが、ファミリーデーにロバートとティナが招待し

再会。初めてのホストファミリー体験でしたが、1人だけで、人となりが分かっているため安心感がありました。日本食が大好きで、お箸の使い方がとても上手な二人。刺身、豚カツなど食べたいものを伝えてくれるので、メニューに迷わずにすみませんでした。日本のビールがお気に入り、飲みながら話すのも楽しい時間でした。

主人がゼスチャーを交えながら日本語で話し、日本語が分からないはずのティナがなぜか理解できるという驚きの場面も多々ありました。翻訳アプリに頼っていた私は少し反省…。ファミリーデーにはロバートか

ら「侍の衣装を着て写真を撮りたい」というリクエストが。どこがいいのかと困っているときに、別のホストファミリーの方に日野市の新選組ふるさと歴史館を連れて頂きました。念願の刀を持った写真の撮影、神社でお参り、お土産探しと、短い時間でしたが喜んでくれました。

大学生の娘と高校生の息子は学校もあり交流できる時間は限られましたが、また米国や海外に行きたいという気持ちが高まったようです。何より訪問する側、受け入れる側の両方を経験することができました。次はインディペンデンスでの再会を約束。慌ただしくも楽しい一週間、素敵な機会を有難うございました。

市民親善派遣団体験記

〜長年の願望であったホームステイを実現〜

派遣団員 松尾民子



ホストと笑顔の松尾ご夫妻

私は50年来東村山市民であるにもかかわらず、友好協会の存在や姉妹都市との交流について知りませんでした。ホームステイをしたいという気持ちは以前からあったのですが、手だてがわからず、悶々としていました。たまにたま友好協会主催の英会話教室の手伝いがきっかけで、ホームステイが

実現出来ました。とても不安だったのですが37人もの人が親善派遣団としてあらゆる場面で、一緒に行動することで不安が安心に変わりました。友好協会が40年もかけてイ市市民との関係作りがなされ、東村山市とイ市つながりがあったからこそ、ステイがスムーズに出来たのだと思います。5泊7日の日程で印象に残った事があります。

①友好協会の親切なサポート。
②グレンデル小学校での子供達の日本文化を理解しようとする歌や踊りに感激したこと。
③サンタカリゴン祭への参加とイ市に滞在している日本人留学

生との出会い。
④イ市長主催の晩餐会でのトルーマン元大統領のお孫さんの講演を拝聴したこと。
⑤その他、教会のミサに参加後、ホストとレストランでのモーニングで半端でない大きさのパンケーキを食べた時は、まるで自分がアメリカ人になったような気分になりました。

このような事を通して、今まで東村山市民として気にも掛かなかつた友好協会の活動内容の素晴らしさに触れました。70歳を過ぎた今、ちょっと遅すぎますが、派遣団の一員として参加出来た事に感謝し、市民として何かしら貢献していきたいと思えます。

あの人はいま

第10回派遣生 村山 輝紀

私がインディペンデンス市を訪問したのは昭和63年、昭和最後の派遣生です。姉妹都市提携10周年の年でした。昨年姉妹都市提携40周年を迎え、平成も終わろうとしている今となつては隔世の感がありますが、両市民の親善友好への思いは変わるこ

私が今、東京で弁護士をしています。英語を駆使する案件はさほどありませんが、派遣生の経験で培われた積極性が今の仕事にも活かされています。

また、本職の傍ら、派遣委員会でお手伝いさせて頂いています。委員会の携わることにより、派遣生を送り出すにあたり多くの方々のお力添えがあったことを理解しました。当時は電子メールやSNSなどもなく、連絡手段はエメールという時代でした。交流事業に必要とされる労力は、便利になった現在とは比べものにならないかなのでしよう。そのような環境の中で派遣生として送り出していただいた協会はじめ関係者の皆様方への御恩返しとして、少しでもお力になることができれば幸いです。

両市民の交流が未永く続き、派遣生の経験を人生の糧となし得る若者が一人でも多く誕生するよう、心から祈念しています。

友好の絆を支えてくれた恩人

友好協会顧問 大野 茂



元市長とロージーさん (右)

今回のインディペンデンス市訪問は旧交を温めると共に、老人ホームで余生を送っている千代子・スミス（愛称ロージー）さんを見舞うことでした。彼女は1945年16歳で山形市にて終戦を迎え、戦後は米軍基地のPX（売店）で働き、ミズーリ州出身のスミスさんと知り合い、結婚。その後米軍関係の職場で数々の仕事を経験。1957年に米国籍を取得。1976年からイ市のフォート・オーセージ学区の調理施設で働き、ケータリングの企画・食材調達等の責任者になり、20年間従事しました。

1978年にご主人に先立たれましたが、女手一つで3人の子供を立派に育て、姉妹都市委員会委員としても「控えめだが、明るい人柄で裏方に徹して」東村山の学生・成人の歓迎会等には、日本食で皆を楽しませ、趣味のライオンダンスを踊る等ウエスタンパーティー担当の適役でした。

2012年にはイ市から姉妹都市活動の功績で表彰されています。東村山へは、1993年と2004年に来日しています。日本庭園委員のホストも経験しています。

40周年記念事業の終了後の2018

お知らせ

◇総会

5月18日(土)14時より市民センターにて、平成31年度の総会を開催します。終了後懇親会があります。皆様の参加をお待ちしています。

◇年会費納入のお願い

平成31年度の会費は拡充委員が5月下旬よりお預かりに伺います。その際、粗品をお届けします。

◇記念誌の配布について

姉妹都市提携40周年記念誌が3月末に完成予定です。5月の総会以降お届けいたします。

編集後記

記念行事も無事終了致しました。協力して頂いた皆様に感謝申し上げます。

さて、この度当協会では、40周年記念誌編纂をしており完成間近です。イ市との交流の歴史を伝える本です。会員の皆様楽しみにお待ちください。

人と人

発行：東村山市国際友好協会
編集：広報委員会
東村山市本町 1-2-3
東村山市役所内
☎393-5111 内線2558・2559
http://www.h-ifa.com/